

被災地を結ぶ、伝える活動

伝承ロード 縁

複合災害の記憶と教訓伝える いわき震災伝承みらい館

防災教育の市民団体「ゆりあげかもめ」会長 佐竹さん
岩手県立大槌高等学校
道路の整備で復興後押し
みやぎ生活協同組合「東日本大震災学習・資料室」
気仙沼市
宮戸地区復興再生多目的施設「あのみな」
道の駅「青の国ふだい」





複合災害の記憶と教訓伝える

いわき震災伝承みらい館

昨年夏に来館者5万人に達した、いわき震災伝承みらい館

東日本大震災の津波の直撃を受け、取り壊された旧いわき市立豊間中学校跡地の一角に立つ「いわき震災伝承みらい館」。津波映像が流れる大型モニターや被災者の声、語り部講話などを通して、地震や津波、東京電力福島第1原発事故からの避難という複合災害に見舞われたいわき市の記憶と教訓を後世に伝えていきます。

同館がある薄磯地区は東側に海、西側に丘陵地が広がる250世帯ほどが住む集落でしたが、最大高8・51メートルの津波が押し寄せ、家屋の約9割が流失。1000人を超える人が犠牲となるいわき市最大の人的被害に見舞われました。

2018年までに防潮堤や防災緑地の整備が完了し、同館は盛り土が行われた海拔10・3メートルの高台に、20年5月に開館。複合災害の経験を振り返り、防災意識を育むことを目的として市が整備しました。

2階建ての1階には展示室の他、語り部の講話などで使われる多目的学習室があります。200インチの大型モニターでは津波襲来時の映像を上映。「早く逃げろ」といった住民の叫び声が、当時の緊迫した状況を来場者に訴えています。

展示は「地震」「津波」「原発事故」の三つのコーナーに分か

れ、震災発生から復旧・復興までを時系列で紹介するパネルや、被災者のインタビュー映像、福島第1原発の事故を伝える地元の新聞などを公開しています。

定期講話を開催

薄磯地区の海岸沿いにあった豊間中学校は、震災当日の午前中に卒業式が行われていました。

展示されている3年1組の教室にあった黒板には、「祝卒業」「全員笑顔で出発しましょう」などのメッセージが残され、希望に満ちた未来を思い描く生徒たちの言葉に、胸が締め付けられます。

薄磯海岸が見渡せる2階の展望デッキには、震災前と津波直後を撮影した薄磯地区の写真入り案内ボードがあり、被害の大きさを知ることができます。

また同館はいわき市を中心

に活動する自主組織「いわき語り部の会」の事務局を兼務。土日曜、祝日の午前10時半～11時半と午後2～3時の2回、映像や写真とともに語り部が証言する無料の定期講話を開いています。

語り部を務めるのは、震災時に薄磯、豊間、久之浜の各地区など沿岸部で津波を経験した人に加え、震災のちょうど1カ月後に発生し、最大震度6弱を観測した地震の直撃を受けた田人地区の住民も在籍。いわき市で起きたもう一つの震災の貴重な体験談を聞くことができます。

開館は午前9時～午後5時（入館は午後4時半まで）。入館無料。休館は月曜（祝日の場合は開館し翌平日休館）と年末年始。



リスク知り、万一に備えよう

いわき震災伝承みらい館長の高田さん

「津波で100人余りの方が亡くなった薄磯地区では第一波襲来後、一度波が引けた際に家へ戻ったり、堤防で津波が迫る海を見ていて亡くなった方がいました。『なぜそんなことを』と思うかもしれませんが、代々この地域に住む方は『遠浅の薄磯の海に津波は来ない』と聞いて育ったため、誰も想像すらできなかったのです」

そう話すのは昨年4月、館長に就任した高田悟さん。長

年いわき市役所に勤め、震災後は自宅を失った市民の住宅供給に関わり、被災者の声を聞いてきました。

「津波で家を流された人の中には『怖くて元の場所に家を建てたくない』『海に来るとつらい記憶がよみがえる』といった悲痛な訴えがありました。人は予期しない事態に見舞われたとき『自分だけは大丈夫』という心理が働くといえます。こうしたリアルな証言を発信

し、津波の恐ろしさを伝えたいと話します。

地震・津波に加え、いわき市は福島第一原発事故でも大きな影響を受けました。放射能汚染の影響による政府の避難指示が徐々に拡大していく中、いわき市は独自の判断で同原発の30^キ圏内に入る久之浜・大久地区の住民に自主避難を要請。市内全域についても不要不急の外出を自粛する呼び掛けがなされました。

高田さんの自宅は幸い大きな被害がありませんでしたが、風評被害の影響でいわき市への物流がストップ。食料品や生活用品の確保もままならず不自由な生活を強いられました。「あの時ほど一つのおにぎりのありがたみを感じたことはありません。災害はいつ何時、自分の身に降りかかるとの分かりません。普段からの備えの重要性を実感しました」

自分事として考える

いわき市全域では住戸被害

直接触れることができない防災グッズやタッチパネルを使ったクイズなど体験型の展示が豊富



を包みます。

が約9万棟、450人余りの命が失われましたが、多くは津波が襲った沿岸部に被害が集中したため、直接の被害が少なかった地区との温度差があるといえます。

「震災のちょうど1ヵ月後に発生した、いわき市の山間部、田人町を震源とする余震では、大規模な土砂崩れに巻き込まれて4人の方が亡くなっています。自分の住んでいる地域にはどんなリスクがあるのかを知っておくことが大切です。何を置いても、まずは自分や家族の身を守る行動を取ることを第一に考えてほしい」

震災から12年。3月11日には今年も祈りを込めたキャンドルの温かな火が、みらい館

津波被害にあった旧豊間中学校体育館に残されたグランドピアノを修復して展示



「ここを見学に来れる小・中学生の多くが震災を経験していません。展示物を過去の歴史として捉えるのではなく、自分の身を守るための手段や材料としてほしい」

定期講話に加え、地元の小・中学校で行われている防災教育の手伝いなども務める「いわき語り部の会」の会員は70代が中心。若い世代の担い手の確保も今後の課題です。

「12年たつから施設としての使命が薄まるということは決してなく、さらに役割は大きくなっていくと実感します」と高田さんは決意を新たにしています。



「不自由な生活を送る中、ボランティアの方々の温かい思いやりに助けられた」と高田さん

思いを
((発信))

「命を守る」を学ぶきっかけに 防災教育の市民団体「ゆりあげかもめ」会長 佐竹さん

住民約6000人のうち753人が津波で亡くなった名取市閑上地区。保育児54人全員を避難させ、1人の犠牲者も出さなかった名取市立閑上保育所で当時所長を務めていたのが、佐竹悦子さんでした。体験を後世に伝え、命を守るための知識を広めようと、閑上地区の住民らとともに防災教育の市民団体「ゆりあげかもめ」を設立。遊びながら防災の備えが身に付くクイズやゲームなど実技を取り入れた講話を行っています。



名取市震災復興伝承館の展示の前で「閑上の奇跡」と呼ばれた閑上保育所の避難の様子を振り返る佐竹さん

閑上保育所所長着任2年目の2010年、避難訓練に取り組みながら、もしここに津波が来たら」という不安がよぎったという佐竹さん。町内会長や消防署長らに話を聞きながら職員とともに避難所までの道を実際に歩いて経路を確認するなど、マニュアルの検証、改善に取り組んでいました。こうした備えが役立ち、東日本大震災では早めに避難することとなく保育児と職員全員を避難させることができました。

その後、佐竹さんは市職員として仮設住宅支援を担当。閑上地区の住民らと接する中で被災当時の体験談を聞くようになります。体験談に共通していたのが「この体験を後世に伝え役立てなければいけない」という思いでした。佐竹さんは住民との話し合いを半年間重ね、防災教育の市民団体の設立を決意します。「体験を話し伝えるだけでは、聞いた直後に心を動かされても時間がたつと薄れてしまう。折に触れて思い出してもらえようという工夫できないか、と考えました」と佐竹さん。



ゲームやクイズなどを通して学ぶワークシヨップは子どもたちにも好評

「避難所運営ゲームHUG」といった防災・減災の備えに役立つ体験プログラムを全国の防災関係者、専門家に学び、自治会や防災・教育関係団体など主催者の目的に合わせ、講話と組み合わせたワークショップを提案。備えの必要性を説く導入として、自分取り組みに力を入れています。「自然災害に限らず、体験していない人が体験者の思いを理解するのは難しい。世の中にはいろいろな不条理があって、立ち向かっている人がいる。大切なのは前に進むようにしている人に、どう寄り添って一歩前に進むためのお手伝いができるか」と佐竹さん。「生かされた私たちができるのは、自分たちの経験を語り『自分の命を守って』と伝えていくことだと思います」と思いを語ってくれました。

命を守るワークショップ



専門家と連携し身近な材料を使ったランプなど防災グッズの手作りワークショップも開いています

復興の足跡、写真で記録

岩手県立大槌高等学校

東日本大震災の津波で被災した町が、どう生まれ変わるのか。その足跡を写真でつづさに記録してきたのが、岩手県立大槌高等学校(継枝斉校長)の復興研究会定点観測班です。その成果が認められ、昨年秋に「令和4年防災功労者内閣総理大臣表彰」を受けました。2013年度に発足した同会は、先輩から後輩へ、防災や震災伝承、町の変遷と向き合うバトンがしっかりと受け継がれています。

震災時、大槌町中心部からやや内陸の高台にあった同校は、その年の8月上旬まで避難所として機能しました。避難所運営は教職員と生徒が行い、復興が進む過程で生徒もまちづくりに参加。このような一連の取り組みが、復興研究会の活動につながっています。

同会は部活動でもなければ委員会の活動でもなく、入会は生徒の任意。全校生徒166人中65人が在籍し定点観測、他校交流、キッズステーション、広報の四つの班で活動しています。

定点観測は会発足の2013

年春から続く代表的な活動で、町内180地点を毎年5、9、12月に写真撮影しています。顧問の先生は「町内の皆さんも温かく見守ってくださいっています。過去、現在、未来という三つの軸につながる活動を進めていきたい」と語ります。

新しい大槌発見したい

1年生で定点観測と広報で活動する兼澤美海さんは「町内出身ですが、身近な場所以外はどう変わったのか知りませんでした。新しい大槌を発見

できると思います、活動しています」と話します。

同校は「はま留学」として全国から生徒を受け入れていきます。1年生の矢作梨さんは、さいたま市出身。「全国の学校を調べた時、大槌高校の復興研究会のことを知り、私がやりたいことはこれだと思いました」と笑顔で振り返ります。定点観測と他校交流で活動し「町民が自分たちの力で復興しよう」と頑張っている姿勢に感動しました」と言います。

定点観測は息の長い活動です。「先輩たちから撮りためてきた写真を見ると、何もない景色からのスタートは、裏返せばそれだけ被災がすごかったということ」と2人。

もう一人の顧問の先生は「自主性のある活動を大切にしています。生徒には卒業後も進んで震災を伝えてほしい」と願っています。



定点観測では生徒たちが手分けして町内180地点を撮影

復興研究会が撮りためてきた写真の前に並ぶ矢作さん(左)と兼澤さん



震災、原発事故からの克服目指して

道路の整備で復興後押し

復旧・復興のために一日も早く道路を通す。東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の被害を受けた道路の管理者にとって、それは命題でした。震災から12年の間には、国道6号が全面通行可能となり、東北中央自動車道も相馬～福島間が全通。安全性や利便性の向上に向け、国道6号のさらなる整備を進めている国土交通省東北地方整備局磐城国道事務所（いわき市）に話を伺いました。

相馬と福島を結ぶ 東北中央道が全通

磐城国道事務所はいわき市から新地町までの国道6号と国道49号の同市内分の計170.4キロが管理路線。また、浜通り北部と県都・福島市を結ぶ東北中央道は震災からの早期復興を図るリーディングプロジェクトとして位置付けられ、相馬インターチェンジ（IC）～桑折ジャンクション間約45キロのうち、相馬～相馬玉野IC間16.5キロの整備事業を担当しました。

同事務所の担当区間は2017年3月に相馬山上～相馬玉野IC間、19年12月に相馬～相馬山上IC間が開通。相馬～福島間としては震災から10年の21年4月に全通しました。原田洋平所長は「この道路に



被災から間もない、いわき市四倉町の国道6号の様子

限らず、復興事業の最中であり、資材や人員のやり繰りが大変で、早め早めの手配でした。工事が出た土砂の一部を相馬市内の復興事業で活用しましたが、土の搬出が早過ぎても遅過ぎても駄目。事業の進捗を見て調整を図りながらの作業となったようです」と振り返ります。

東北中央道の相馬西道路（相馬～相馬山上IC間）の整備事業は、全日本建設技術協会の19年度全建賞（復旧・復興事業特別枠・道路部門）を受賞しました。広域観光や地域産業の活性化、迅速な救急医療活動などに貢献する道路で、早期

開通の実現などが評価されました。同事務所は相馬市に出張所を設け、工事のみならず地元の合意形成や情報発信などを迅速に行いながら、事業を進めました。

国道6号の整備進む 2地区をバイパス化

国道6号は震災直後から被災した地域の復旧作業に着手

しました。いわき市四倉町～久之浜町では約7キロの津波の直撃を受け約1カ月間通行止め。その他の地区も浸水やのり面崩落、路面陥没といった被害がありました。復旧作業を進めたくても資材もなければ地元の作業員も避難して確保できない。しかも福島第一原発から半径20キロ圏内の「警戒区域」は防護服での作業と前例のない出来事となりました。

「当時の関係者は本当は大変だったと思う」と原田所長。浜通り地域の復旧・復興事業に伴う車両の増加を見込み、まずは通行の確保を主眼に進めました。国道6号の立ち入り制限解除も段階的に進められ、14年9月に軽車両と歩行者を除き警戒区域内の全線が通行可能となりました。

四倉町～久之浜町間は17年2月に久之浜バイパス（6キロ）が暫定2車線で全通。この区間は復興事業に関係する車両の通行が多く、特に朝夕は渋滞気味でした。バイパスは新しいだけに走りやすく、被災した旧道より内陸側を通り、交通量も分散されて渋滞の緩和につながっています。

同様に、大型車の通行量が増えたことで、双葉町内の国道6号では付加車線を設置す



写真左上から緩やかなカーブを描いて中央のトンネルに続く久之浜バイパス



2021年4月に相馬～福島間が全通した東北中央道（写真は相馬IC付近）

資材・人員不足、防護服… 急ピッチで異例の工事



震災伝承施設

00 → 第1分類

下記の項目のいずれか一つ以上に該当する施設。

- ①災害の教訓が理解できるもの
- ②災害時の防災に貢献できるもの
- ③災害の恐怖や自然の畏怖(いふ)を理解できるもの
- ④災害における歴史的・学術的価値があるもの
- ⑤その他、災害の実情や教訓の伝承と認められるもの

00 → 第2分類

第1分類のうち、公共交通機関等の利便性が高い、近隣に有料または無料の駐車場があるなど、来訪者が訪問しやすい施設。

00 → 第3分類

第2分類のうち、案内員の配置や語り部活動など、来訪者の理解しやすさに配慮している施設。

- ① 塚浜防災緑地
- ② 復興フラッグ広場
- ③ 震災伝承看板「津波被害から地域を守った『相馬バイパス』」
- ④ 原釜尾浜防災緑地
- ⑤ 相馬港沖防波堤災害復旧事業完了祈念銘板
- ⑥ 相馬市伝承鎮魂祈念館
- ⑦ 震災伝承看板「観光ルートを支える市道と一体となった『松川大洲・大浜地区海岸堤防』の復旧(相馬市尾浜)」
- ⑧ 相馬市防災備蓄倉庫
- ⑨ 南相馬市メモリアルパーク
- ⑩ 福島いこいの村なみえ
- ⑪ 震災伝承看板「地域の防災と基幹産業を支える『請戸漁港』」
- ⑫ 震災遺構浪江町立請戸小学校
- ⑬ 東日本大震災・原子力災害伝承館
- ⑭ とみおかアーカイブ・ミュージアム
- ⑮ ふたばいんふお
- ⑯ みんなの交流館ならはCANvas
- ⑰ 津波防災対策ビューポイント「みるーる天神」
- ⑱ National Training Center「Jウイレッジ」
- ⑲ ひろの防災緑地
- ⑳ 震災記念公園
- ㉑ 末統地区東日本大震災之碑
- ㉒ 稲荷神社
- ㉓ 久之浜・大久地区東日本大震災追悼伝承之碑
- ㉔ 久之浜防災緑地
- ㉕ いわき地域防災交流センター 久之浜・大久ふれあい館
- ㉖ 震災伝承看板「津波被害からいち早く再開した地域振興の拠点(道の駅よつくら港)」
- ㉗ 四倉防災緑地
- ㉘ 沼ノ内防災緑地
- ㉙ 薄磯防災緑地
- ㉚ いわき震災伝承みらい館
- ㉛ 豊間地区東日本大震災慰霊碑
- ㉜ 豊間防災緑地
- ㉝ 永崎防災緑地
- ㉞ いわき市ライブいわきミュウじあむ「3.11いわきの東日本大震災展」
- ㉟ アクアマリンふくしま
- ㊱ 岩間防災緑地
- ㊲ 井戸沢断層

震災伝承看板(相馬バイパス)



る事業を21年度から行っています。
また、いわき市勿来地区の津波浸水区間の回避と渋滞緩和を目的に、勿来バイパス(4.4キロ)の整備が進められています。久之浜と同様、内陸側に整備し19年度に工事着手しました。県境をまたぐ事業のため同事務所は福島県側2.5キロを担当。

途中、(仮称)勿来トンネルやJR常磐線の跨線橋などの難工事がありますが、早期の完成が待たれるところです。

被災構造物の展示 震災伝承看板設置も

国道6号に並行するように、沿岸部には震災伝承施設が点在しています。同事務所

も道の駅「そま」の震災伝承コーナーに、被災した橋梁の部材や道路案内標識などを展示。相馬バイパスと道の駅「よつくら港」には震災伝承看板を設け、その場所が震災時にどのような役割を果たしたのか、そして復興の過程などを分かりやすく紹介しています。

震災時の津波浸水区間を示

す標識や津波警報・注意報が発表された際に情報を伝える津波情報板などの設置も進め、いわき市内には住宅地から常磐バイパスへの緊急時避難階段も設けました。地域のNPO法人が主導し、福島県内の国道6号と沿線各自治体の県市町村道に住民や避難者が桜の苗木を植える「ふくしま浜街

道・桜プロジェクト」も進められています。
原田所長は「被災地ということとはもちろん、一つのまちだけでは完結しない通勤や通学、病院、買い物など移動のニーズがあります。地域の声をよく聞きながらモビリティ(動きやすさ)を常に考えていきたい」と話しています。

記憶を残す
明日のために

全国の仲間との取り組みを記録

みやぎ生活協同組合「東日本大震災 学習・資料室」

東日本大震災以降の「みやぎ生活協同組合（みやぎ生協）」の取り組みを後世に伝えようと、2013年3月に開設された「東日本大震災 学習・資料室」。震災時、一時避難所としても住民らに利用された「みやぎ生協文化会館ウイズ」館内の展示スペースで、当時の被害状況や活動の様子などを無料で公開。生協組合員や職員、取引先といった関係者らの研修はもちろん、県内外からの校外学習などに利用されています。



「自ら被災しながら出勤してくれた職員たちには頭が下がりました」と振り返る中塩さん

みやぎ生協は48店舗中14店舗が甚大な被害を受け、2店舗が閉店を余儀なくされましたが、震災当日に27店、翌日には44店が商品価格を100円単位で切り下げて営業を再開。共同購入の宅配ドライバーも人命救助などに当たり、3月14日からは救援物資を届けながら津波被災地の組合員の安否を確認する「お見舞い活動」に取り組みました。

通信網が遮断される中、各店長やドライバーの判断・行動を支えたのは1995年の阪神淡路大震災の被災地で支援に当たった経験でした。

当時、宅配事業の副センター長を務めていたコープ東北サネット事業連合機関連営部課長の中塩晴彦さんは「私たち生協は地域のライフライン。神戸での経験から被災地で役立つのが使命、という思いがありました」と振り返ります。

震災直後、日本生協連と連

携しトラックに食料や燃料を詰め込み、真っ先に駆けつけてくれたのも、阪神淡路大震災で被災経験のあったコープこうべの職員たち。その後、5月末までに全国69の生協から支援物資が寄せられたほか、延べ2992人が応援職員として、みやぎ生協が県内24自治体と締結していた「緊急時の応急支援物資協定」に基づく避難所への救援物資配送などを支えました。

生産者の復興支援も

県内4カ所に開設したボランティアセンターを拠点にしたボランティア活動も当時、みやぎ生協が力を入れた取り組みの一つ。分断された被災地のコミュニティを取り戻し、被災者の生きがいづくりにつなげようと、避難所などでサロン活動を行いました。

甚大な被害を受けた宮城県内の農漁業関係者、食品関連産業者の復興を目指し、

2011年7月に結成した「食のみやぎ復興ネットワーク」の活動は、15年に新設された「古今東北」ブランドへと引き継がれ、現在も東北6県の生産者たちを後押ししています。

みやぎ生協では将来、再び災害が起こったときに備え、災害時の事業計画、マニュアルを見直したほか、各事業所に自家発電機や燃料のインタークを設置したり、井戸を掘ったり、衛星携帯電話を配備するなどインフラも強化。

こうした取り組みをパネルや映像資料などで紹介する「東日本大震災 学習・資料室」は18年にリニューアルされ、原発災害後のコープふくしまの取り組みも新たに発信しています。



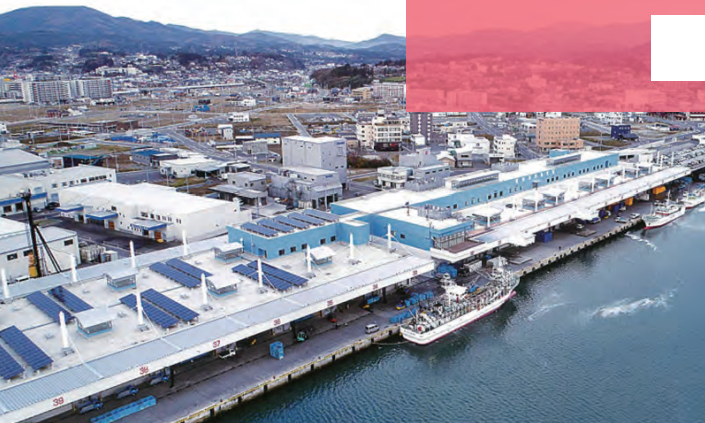
2022年8月までに延べ1万87人が来館しました

MAP

所在地 / 仙台市泉区八乙女4-2-2
みやぎ生協文化会館ウイズ1階
TEL022-771-1590

震災で得た「縁」を生かす

被災地として伝承にも責務 気仙沼市



見学スペースやクッキングスタジオ、屋上ライトアップ照明などを備え
2019年に完成した高度衛生管理型の新魚市場



お話を伺った方
菅原茂市長

がれきと化したモノトーンのまちに、色彩を取り戻すにはどうすべきか。東日本大震災の津波とその後の大規模火災で甚大な被害を受けた気仙沼市の復興は、さまざまな困難にぶつかりながらも一つ一つの色が着実に戻ってきた12年間でした。ハード面の整備や拡充はもちろん、人のつながりが新たなまちを創造しています。

がぶつかり遡上高が増した地区は壊滅的な被害となりました。

全国有数の港町として知られる気仙沼市は、震災時にリラス海岸特有の地理的条件が災いしました。海に接した平地で、付近の山や高台に津波

三陸海岸は津波常襲地帯と言われ、「いつかは来ると覚悟していました」と菅原市長。「想像をはるかに超える津波でした。発災翌日、高台からまちを見渡すと変わり果てた光景が広がっていた。色がなくなり、モノトーンの世界でした」と振り返ります。

復旧から復興へ向かう過程では、避難所から仮設住宅、災害公営住宅の順に住まいの確保が重要課題となりました。仮設住宅は、平地が被災し安全な場所が限られ、公有地だけでは全く足りず、私有地も活用し最終的に93カ所3504戸が完成しました。

このうち2カ所は一関市の室根町と千厩町の学校跡地を利用し、県境を越えた珍しい事例となりました。

気仙沼市のアイデンティ

2011年3月23日、魚市場屋上から撮影した南側の被災した様子



ティーは「海と生きる」。市内

事業所の8割が被災する中、産業復興、水産業の回復も重要なテーマでした。気仙沼市魚市場の整備に始まり、復興を契機にした「社会課題の解決」として、被災地域の職住混在を解消し、船舶の大型化に合わせて造船所も水深のある所に移転、水産関連産業の集約などを図りました。

地方創生のモデルに

菅原市長は「震災で失ったものはあまりに大きかったが、得たものもいっぱいあります。漢字一文字で言えば『縁』。新しいことに導いてくれる人がたくさんいて、こういったつながりが今後生きていく」と

話します。

震災後の人口減少が進む一方で移住者も多く、新たな産業を立ち上げるなどしています。気仙沼市では「経営」「まちづくり」の人材育成に力を入れ、そのプログラムに移住者も積極的に関わっています。地方創生の成功例は人口3000人前後のまちが多く、地方都市として標準的な人口7万人クラスのロールモデルに気仙沼市がなり得ることを目指しています。

気仙沼市では震災伝承にも力を入れ、2019年3月に開館した「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館」は全国的にも有名です。「私たちには伝承する責務があります」と菅原市長。「震災の現実感を維持し伝えて、何年たっても教訓として価値のあるものにするには、私たちは学び続けなければなりません」と強調します。

そのためには「私たち自身が震災の記憶と記録を足していかなければならないし、最新の防災を学ばなければなりません。そういった場として伝承館を活用してもらいたいし、将来世代の興味が尽きないような施設でありたい」と語りま

景勝地「奥松島」の拠点 復活果たした遊覧船も運営

宮戸地区復興再生多目的施設「あおみな」

松島湾最大の島、東松島市宮戸島にある宮戸地区復興再生多目的施設「あおみな」は、景勝地「奥松島」を訪れる人々の拠点として2017年に開業。東日本大震災の津波による壊滅状態から復活した奥松島遊覧船の案内所も兼ねています。震災前同様、遊覧船からは嵯峨溪や大小の島々の美観を眺められます。



あおみなに隣接している遊覧船の発着所

仙台方面から見て松島湾の奥に位置する宮戸島とその周辺は「奥松島」と呼ばれ、嵯峨溪や大高森がある景勝地として知られています。震災による津波で宮戸島は甚大な被害を受けました。野蒜海岸近くにあった遊覧船の発着所を飲み込み、2隻の遊覧船が流失。嵯峨溪の名所「みさご島」の岩は崩れました。

当時、遊覧船は第三セクターの奥松島公社が運営。2022年4月には東松島市観光物産協会と統合して東松島観光物産公社となり、運航業務を継続しています。奥松



乗船客に紹介する震災前の嵯峨溪の写真をする門馬さん

島公社時代から勤め、現在は東松島観光物産公社の総務営業課長を務める門馬眞紀江さんは「会社の事務所は当時のJR野蒜駅2階にありました。津波は1階の天井ぎりぎりまで到達し、避難者は屋上に逃げました」と説明します。門馬さんは当日は休みでしたが、市内にある実家が流失。職場や周辺の状況を把握できない中、神社の裏山に避難し、一命を取り留めました。

夜が明けると内陸部でさえ悲惨な状況。より海に近い宮

戸島へ向かうことはできません。被害状況が明らかになり、11年4月に船長は解雇。門馬さんを含む3人の社員は片付けで残ったものの「遊覧船も会社もなくなると覚悟しました」と心境を明かします。そんな中、市長は「遊覧船は再開する」と早々に宣言。再開に向けて「希望が見えた」と言いました。

船内で震災前の写真公開

遊覧船は13年10月に再開し、仮設の発着所は被害の少ない松島湾側に移転。15年4月に新造した遊覧船1隻が就航し震災前同様、3隻体制になりました。震災後、新たに雇用した船長も被災者。門馬さんは「船内で震災前の嵯峨溪の写真をお見せし、当時の様子をお伝えしています」と話します。

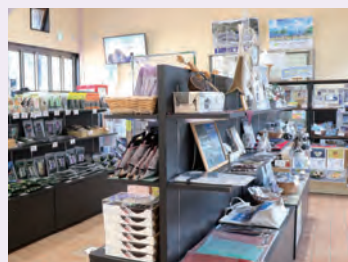
「あおみな」は大高森の登山口に17年5月に開業。遊覧船の発着所と案内所を兼ね、市



所在地/東松島市宮戸字川原5-1
TEL0225-88-3997

の特産品を販売する売店、食堂も設けています。

東松島観光物産公社は市震災復興伝承館の運営も受託。被災者でもあるスタッフたちが「震災を風化させまい」と伝承活動を行っています。



のりといった海産物など東松島市の特産品を販売

- 故和村幸得元普代村長顕彰碑
普代村第7地割
- 太田名部防潮堤
普代村第8地割
- 普代水門
普代村第14地割
- 東松島市 東日本大震災復興祈念公園
東松島市野蒜字北余景56-36

津波被害から再起 特産コンブの販売に尽力

道の駅「青の国ふだい」

岩手県沿岸北部にある普代村は太平洋に面し、ワカメやコンブの養殖が盛ん。東日本大震災では漁港や漁船、養殖施設が津波に飲み込まれ、大きな被害を受けました。復興した漁業は村を代表する産業。新たな交流拠点の道の駅「青の国ふだい」ではコンブをはじめ海の幸を扱い、村の魅力を発信しています。



多彩なコンブ製品を紹介する久保さん(左)と畠山さん

三陸鉄道リアス線普代駅に隣接し、鉄道業務も担う道の駅「青の国ふだい」は2021年9月に開業。元々、普代駅の切符売り場や休憩所、アンテナショップがあった建物を改装しました。直営の売店、休憩所に加え、開業前からある鮮魚店や食堂などを併設しています。

村の沿岸部は東日本大震災の津波で甚大な被害を受けましたが、道の駅がある中心部は普代川河口に設けられた普代水門によって津波被害を免れました。



43台収容する駐車場や24時間利用できる屋外トイレなどを整備

震災当時は普代村漁協の職員で、現在は道の駅駅員の畠山博さんは普代水門より海側にあった漁業関連の施設は津波で全滅。洋上に設けていたワカメとコンブの養殖施設も流されました。ワカメは数日後に収穫を予定し、コンブは5、6月の収穫に向けて順調に育っている時期でしたと振り返ります。

好立地で幅広い客層

震災から1週間後にはがれきや養殖施設の撤去が始まりました。漁業者や漁協、村の消防団、建設業者、ボランティアらによる懸命の片付けと復旧作業で、漁業の担い手は減ったものの、約1カ月後には市場が稼働し、漁や養殖は早々に再開されました。

村や漁協、民間企業が連携してコンブを活用した村おこしを進めていることから、道の駅でもコンブ製品の販売に力を入れています。以前からあるコンブを練り込んだうどんやラーメンに加え、道の駅の開業に合わせてコンブのはつとやそーめんが仲間入り。売店の入り口付近にコンブ製品を並べて猛プッシュしています。

道の駅は13年に開通した三陸自動車道普代インターチェンジから車で1分ほど。NHK連続テレビ小説のロケに使われ、人気が続く三陸鉄道の駅前という好立地です。観光客や鉄道ファン、ドライバーなどさまざまな人の憩いの場になっています。

駅長の久保弘昭さんは「商品の半数はコンブ関連。コンブを活用した村おこしに道の駅もお役に立てれば」と意気込んでいます。



休憩所では村の観光や飲食、買い物情報を発信

MAP

所在地/ 普代村第9地割字銅屋5-3
TEL0194-35-2411

普代村・東松島市の震災伝承施設

普代村は第2分類(公共交通機関等の利便性が高い、近隣に有料または無料の駐車場があるなど、来訪者が訪問しやすい施設)のみ、東松島市は第3分類(訪問しやすく、案内員の配置や語り部活動など、来訪者の理解しやすさに配慮している施設)のみ掲載。

台湾(台北市)で震災伝承施設のセールスコールを行いました

昨年12月14日から17日にかけて東北観光推進機構と連携し、台北市の高等学校および訪日団体旅行を販売する旅行会社を訪問し、セールスコールを行いました。

台湾からの教育旅行を誘致し、震災伝承施設への来訪者増加を推進するため、東日本大震災の被災地にある震災伝承施設の教育的価値を伝えるとともに、「日本東北遊楽日」開催前日のBtoBセミナー・商談会にも参加し、3.11伝承ロードのプロモーション活動を行いました。

訪問した学校の多くは、コロナ禍により台湾国外への教育旅行が制限されているものの、引き続き東北への教育旅行に対する期待は大きく、学校交流、体験学習、民泊などに加え、震災伝承施設での学習も取り入れてみたいといった感想もいただきました。

旅行会社からは、数多くある震災伝承施設の特徴やモデルコースはあるのかなど、今後の商品造成に向けて必要な情報に関する質問があり、充実したPRの機会となりました。

セールスコール先
臺北市立松山高級中學
臺北市立西松高級中學
臺北市立士林高級商業職業學校
臺北市立大安高級工業職業學校
臺北市立松山高級農職職業學校
上順旅行社
雄獅旅行社
太平洋世界旅行社
旅遊家旅行社
山富旅游



臺北市立松山高級中學



臺北市立士林高級商業職業學校



上順旅行社



BtoBセミナー・商談会

表紙

被災地を歩く

「三度あってはならない」

普代水門(岩手県普代村)

先人の熱意が村を守った。

岩手県普代村の普代水門は1972年着工で84年に完成した。普代村は明治と昭和の三陸地震津波で多数の死傷者を出し、次への備えが肝心だった。1933年の昭和と三陸地震津波を経験した和村幸得村長(1947～87年在任)は、防潮堤と水門の設置を指揮した。その際、明治三陸地震津波で記録された高さ15.2mに着目。財源や土地の活用に反対の声が上がったが「二度あったことは、三度あってはならない」と説得。いずれも高さ15.5mで、全長155mの太田名部防潮堤が1967年に、その17年後に全長205mの普代水門が完成した。

東日本大震災では決壊せず、村中心部や住宅地への津波侵入を防ぎ、村での人的被害は船の様子を見るため防潮堤の外に出た行方不明者1人のみで、死者ゼロ、被災民家もなかつ

た。しかし実際に到達した津波は高さ約20mで水門を超えて、数百m上流付近まで流れ込んだ。水門も閉じる途中で停電のため緊急停止し、土壇場で消防士が手で閉めて間に合った。

「奇跡の水門」といわれたが、津波がもう少し高かったり、何度も押し寄せたり、閉門が間に合わなかったら、どうだったのか。やはり「素早く高い所に避難することこそが重要」という教訓を後世に伝える施設でもある。

震災から12年。次に起こりうる災害への備えは、私たちの意識の在り方から始まる。

